

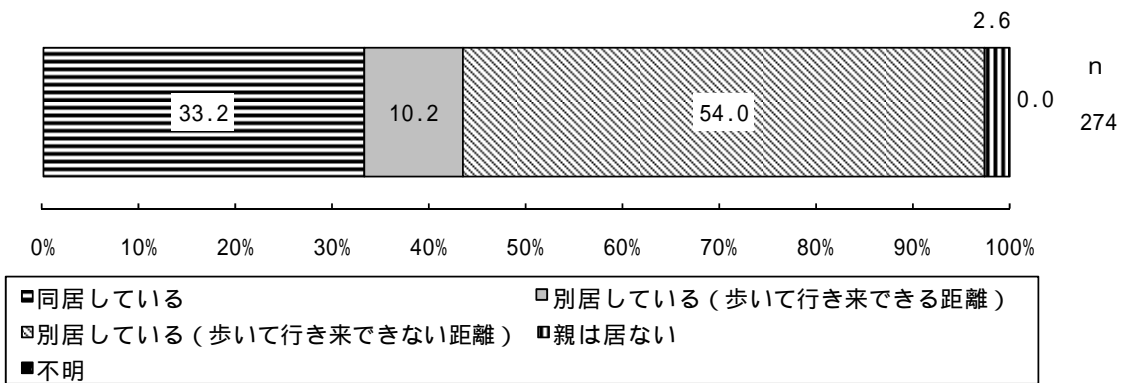
第4章 意識調査（25～29歳）結果

1 生活のこと

問1 親との同居について

SA

親のとの同居の状況について、「別居している(歩いて行き来できない距離)」が54.0%で過半数を占めて最も多く、次いで「同居している」33.2%、「別居している(歩いて行き来できる距離)」10.2%の順である。



問2 家事の状況

問1「1」 SA

家庭内での家事の状況は、「主に自分」は“自分の部屋を掃除する”が67.0%で最も多く、それ以外は、「主に親」が最も多い。

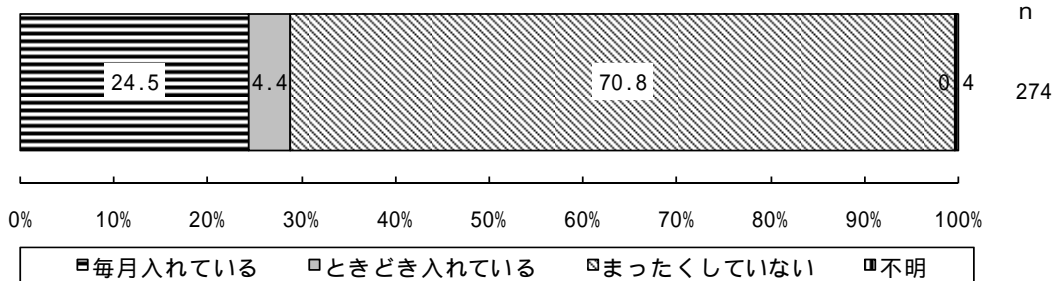
「親と自分の分担で」は、“買い物をする”が33.0%で最も多い。

	全体	主に親	主に自分	親と自分の分担で	同居の家族	その他	不明
食事をつくる	91	67	7	13	3	0	1
	100.0	73.6	7.7	14.3	3.3	0.0	1.1
食事のあとかたづけをする	91	42	17	25	5	1	1
	100.0	46.2	18.7	27.5	5.5	1.1	1.1
トイレを掃除する	91	65	5	15	4	1	1
	100.0	71.4	5.5	16.5	4.4	1.1	1.1
お風呂を掃除する	91	46	15	21	7	1	1
	100.0	50.5	16.5	23.1	7.7	1.1	1.1
洗濯をする	91	62	11	12	5	1	0
	100.0	68.1	12.1	13.2	5.5	1.1	0.0
買物をする	91	50	9	30	1	0	1
	100.0	54.9	9.9	33.0	1.1	0.0	1.1
自分の部屋を掃除する	91	17	61	11	1	1	0
	100.0	18.7	67.0	12.1	1.1	1.1	0.0
ゴミ袋を出しに行く	91	54	12	17	6	1	1
	100.0	59.3	13.2	18.7	6.6	1.1	1.1

問3 親への生活費の支払い状況 SA

親への生活費の支払い状況は、「まったくしていない」が70.8%で最も多く、次いで「毎月入れている」24.5%、「ときどき入れている」4.4%となっている。

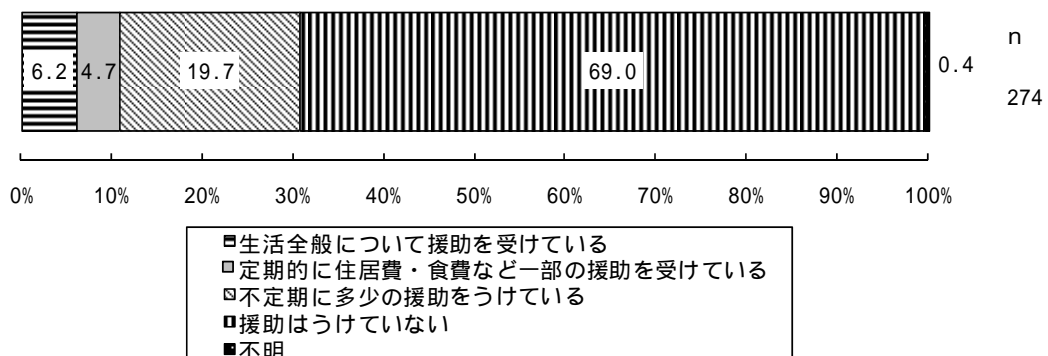
親との同居の状況別では、“同居している”の「毎月入れている」は62.6%となっている。



	全体	問1 親との同居					
		同居している	別居している (歩いて 行き来でき る距離)	別居している (歩いて 行き来でき ない距離)	親は居ない	不明	
合計	274 100.0	91 100.0	28 100.0	148 100.0	7 100.0	0 0.0	
問3 親への 仕送り	毎月入れている	67 24.5	57 62.6	2 7.1	7 4.7	1 14.3	0 0.0
	ときどき入れている	12 4.4	7 7.7	0 0.0	5 3.4	0 0.0	0 0.0
	まったくしていない	194 70.8	27 29.7	26 92.9	136 91.9	5 71.4	0 0.0
	不明	1 0.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0

問4 親からの生活費の援助状況 SA

親からの生活費の援助については、「援助はうけていない」が69.0%で最も多く、次いで「不定期に多少の援助を受けている」19.7%、「生活全般に援助を受けている」6.2%となっている。

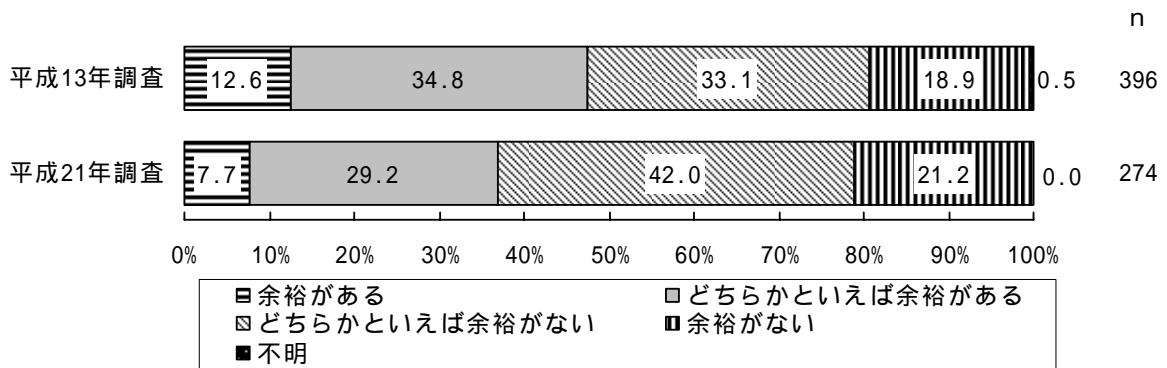


問5 経済的な余裕の有無

SA

経済的な余裕の有無については、「どちらかといえば余裕がない」が42.0%で最も多く、次いで「どちらかといえば余裕がある」29.2%、「余裕がない」21.2%の順で、「余裕がない」と「どちらかといえば余裕がない」とを合わせると63.2%は余裕がないと回答している。

前回調査と比較すると、「どちらかといえば余裕がある」が34.8%で最も多かったのに比べ、今回の調査では5.6ポイントの減少、逆に「どちらかといえば余裕がない」が7.9ポイント増加しており、経済的に厳しい状況がうかがえる。



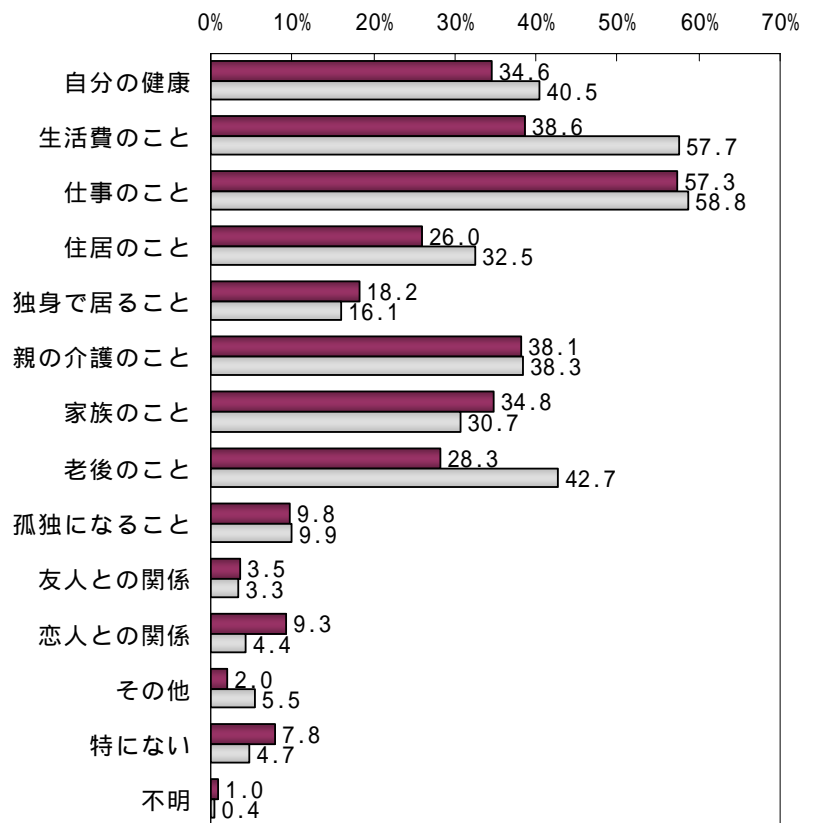
問6 将来への不安

MA

将来への不安については、「仕事のこと」58.8%と「生活費のこと」57.7%が過半数を占めて突出しており、次いで「老後のこと」42.7%、「自分の健康」40.5%の順となっている。

前回調査と比較すると、平成21年調査では「生活費のこと」(+19.1ポイント)と「老後のこと」(+14.4ポイント)が目立って高くなっている。

「恋人との関係」(-4.9ポイント)や「家族のこと」(-4.1ポイント)については、低くなっている。



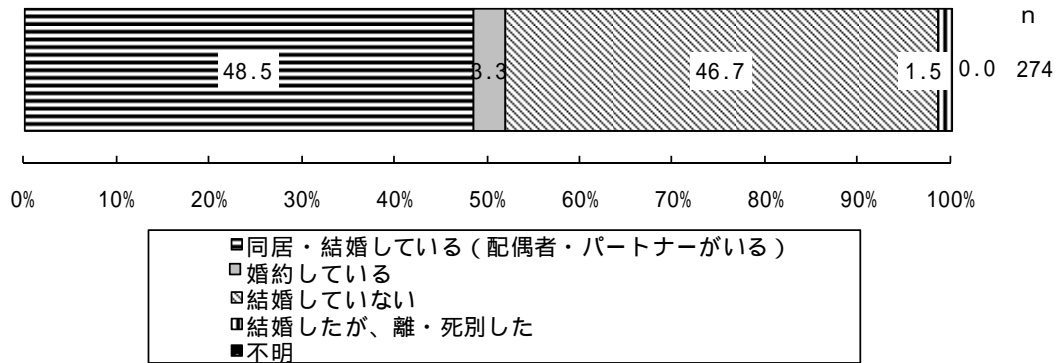
■ 平成13年調査 n=396
□ 平成21年調査 n=274

2 結婚のこと

問7 結婚しているか

SA

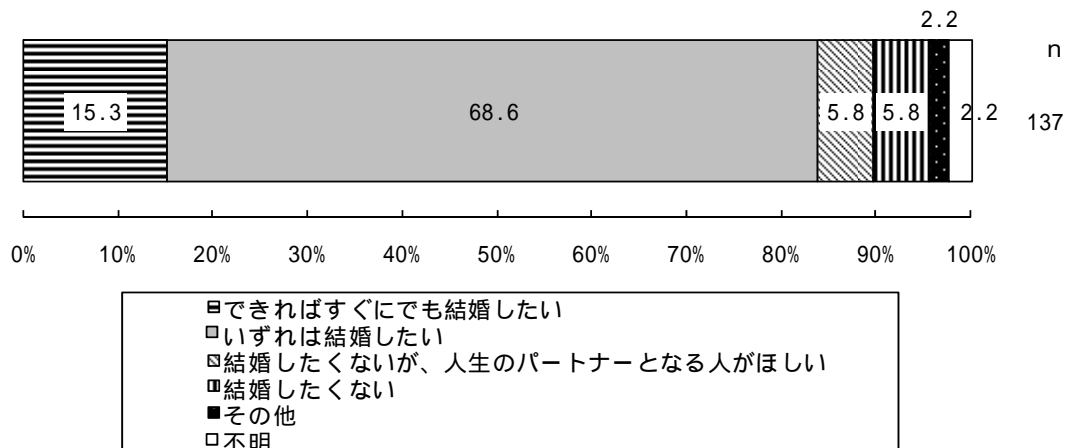
結婚しているかについては、「同居・結婚している(配偶者・パートナーがいる)」が48.5%で最も多く、次いで「結婚していない」46.7%となっている。



問7-1 結婚についての考え

SA

結婚については、「いずれは結婚したい」が68.6%で最も多く、次いで「できればすぐにも結婚したい」15.3%で合わせると83.9%には結婚意向がみられる。

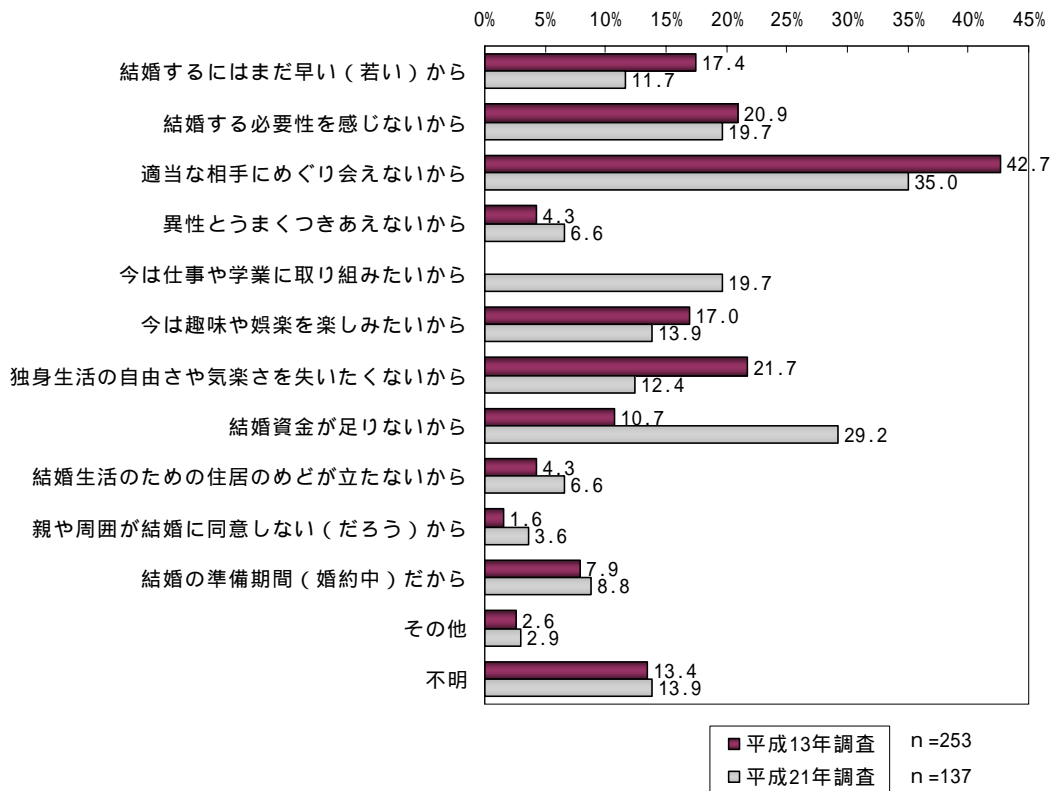


問7-2 結婚していない理由

問7「2」「3」 SA

結婚していない理由については、「適当な相手にめぐり会えないから」が35.0%で最も多く、次いで「結婚資金が足りないから」29.2%、「結婚する必要性を感じないから」と「今は仕事や学業に取り組みたいから」が同率の19.7%の順となっている。

前回調査と比較して、10ポイント以上増加しているのは、「今は仕事や学業に取り組みたいから」と「結婚資金が足りないから」の2項目となっている。



問8 配偶者・パートナーとの役割分担

問7「1」または問7-1「1~3」 SA

配偶者・パートナーとの役割分担については、「女性が中心に男性も行う」が最も多い項目は、「家事」59.9%と「家計の管理」46.4%、「女性も男性も同じ程度行う」が最も多い項目は、「子どもの教育」83.5%、「親の介護」75.5%、「育児や子育て」51.5%、「男性が中心に女性も行う」が最も多い項目は、「生計を立てるための仕事」が73.4%である。

「男性のみが行う」は「生計を立てるための仕事」の8.9%のみである。

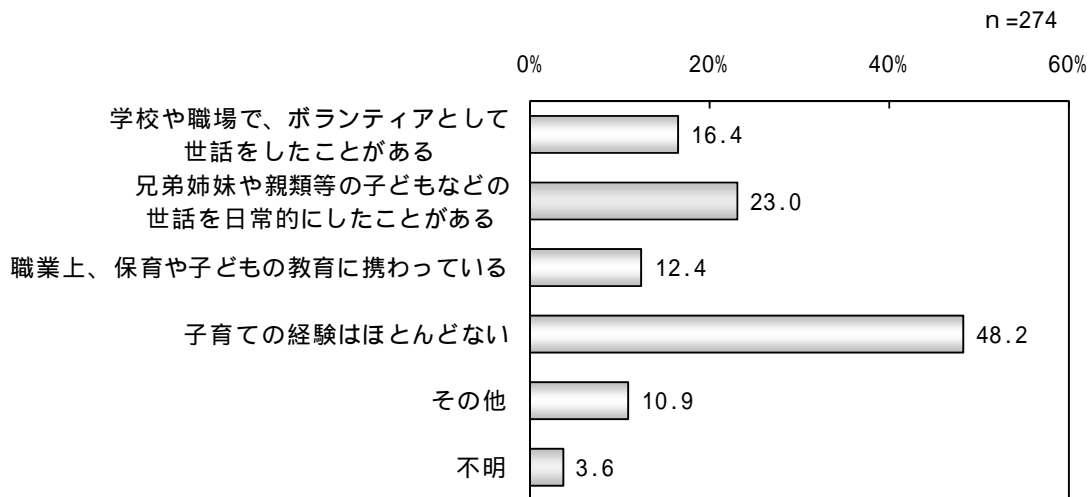
	全体	女性のみが行う	女性が中心に男性も行う	女性も男性も同じ程度行う	男性が中心に女性も行う	男性のみが行う	不明
生計を立てるための仕事	237	0	2	40	174	21	0
	100.0	0.0	0.8	16.9	73.4	8.9	0.0
家計の管理	237	33	110	87	7	0	0
	100.0	13.9	46.4	36.7	3.0	0.0	0.0
家事	237	11	142	82	2	0	0
	100.0	4.6	59.9	34.6	0.8	0.0	0.0
育児や子育て	237	1	112	122	2	0	0
	100.0	0.4	47.3	51.5	0.8	0.0	0.0
子どもの教育	237	1	34	198	4	0	0
	100.0	0.4	14.3	83.5	1.7	0.0	0.0
親の介護	237	1	51	179	6	0	0
	100.0	0.4	21.5	75.5	2.5	0.0	0.0

3 子育てのことについて

問9 子育てに関わった経験の有無

MA

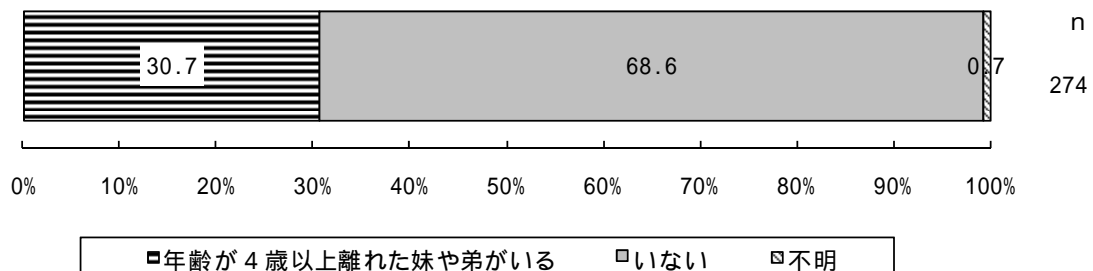
子育てに関わった経験については、「子育ての経験はほとんどない」が48.2%で最も多く、次いで「兄弟姉妹や親類等の子どもなどの世話を日常的にしたことがある」が23.0%、「学校や職場で、ボランティアとして世話をしたことがある」16.4%の順である。



問10 年齢が4歳以上離れた妹か弟の有無

SA

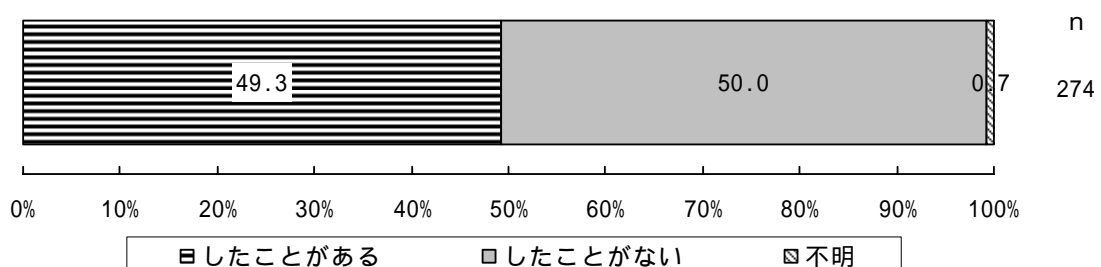
年齢が4歳以上離れた妹か弟の有無については、「いない」が68.6%、「いる」が30.7%となっている。



問11 赤ちゃんの世話の経験

SA

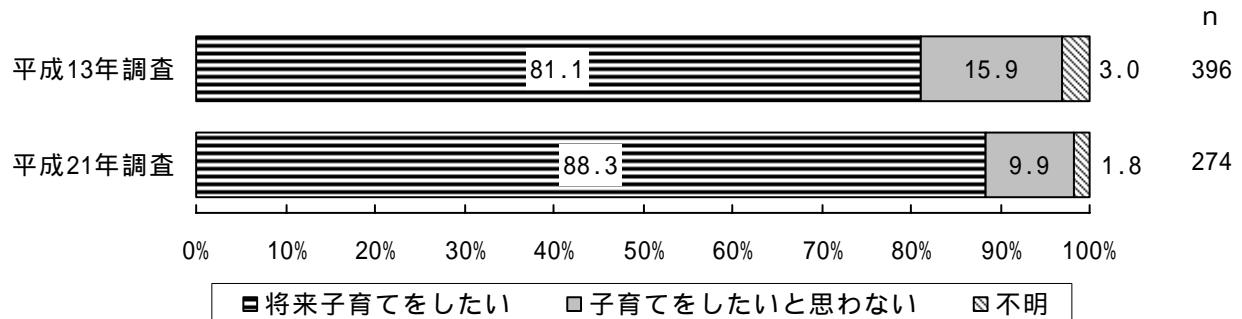
ミルクを飲ませたりオムツがえなどの赤ちゃんの世話の経験については、「したことがない」が50.0%、「したことがある」が49.3%となっている。



問 12 将来、子育てをしたいか SA

将来子育てをしたいかどうかについては、「将来子育てをしたい」が88.3%で圧倒的に多く、「子育てをしたいと思わない」は9.9%である。

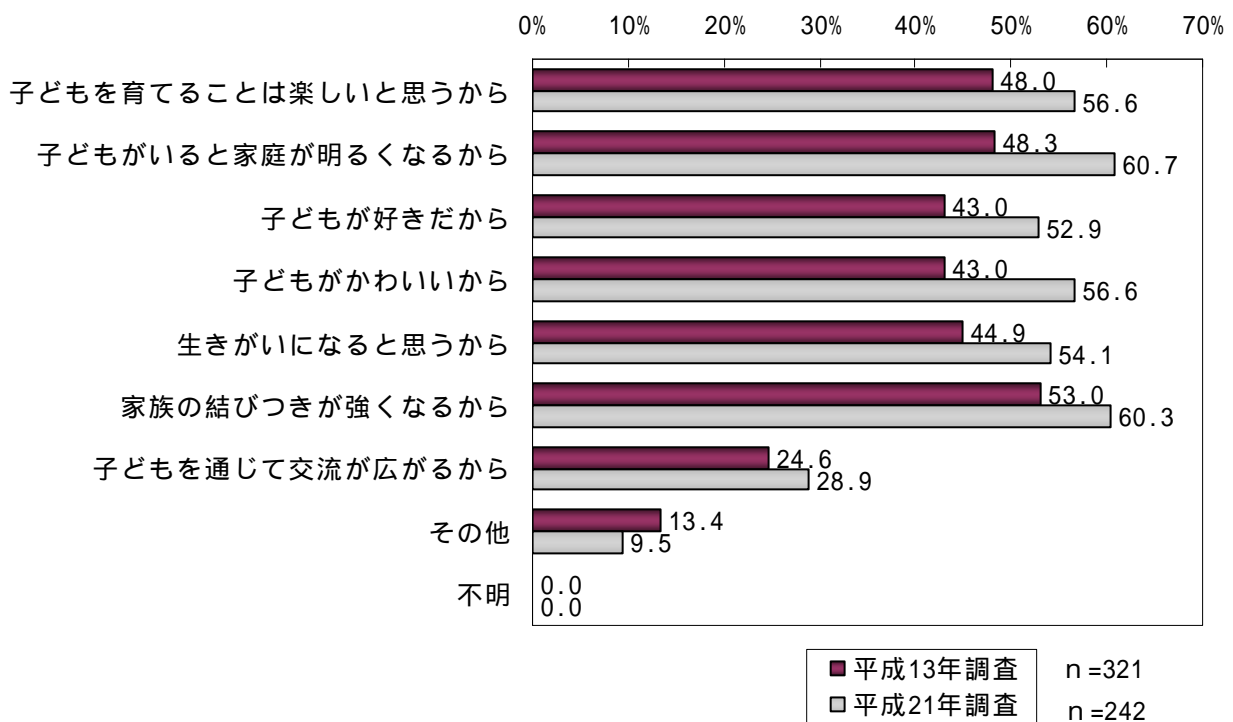
前回調査と比較すると、「将来子育てをしたい」は7.2ポイント増加している。



問 12-1 子育てをしたい理由 問 12「1」 MA

子育てをしたい理由については、「子どもがいると家庭が明るくなるから」が60.7%で最も多く、次いで「家族の結びつきが強くなるから」60.3%、「子どもを育てることは楽しいと思うから」と「子どもがかわいいから」が同率で56.6%である。

前回調査と比較すると、どの理由も高くなっており、特に「子どもがかわいいから」(+13.6ポイント)、「子どもがいると家庭が明るくなるから」(+12.4ポイント)が大きく増加している。



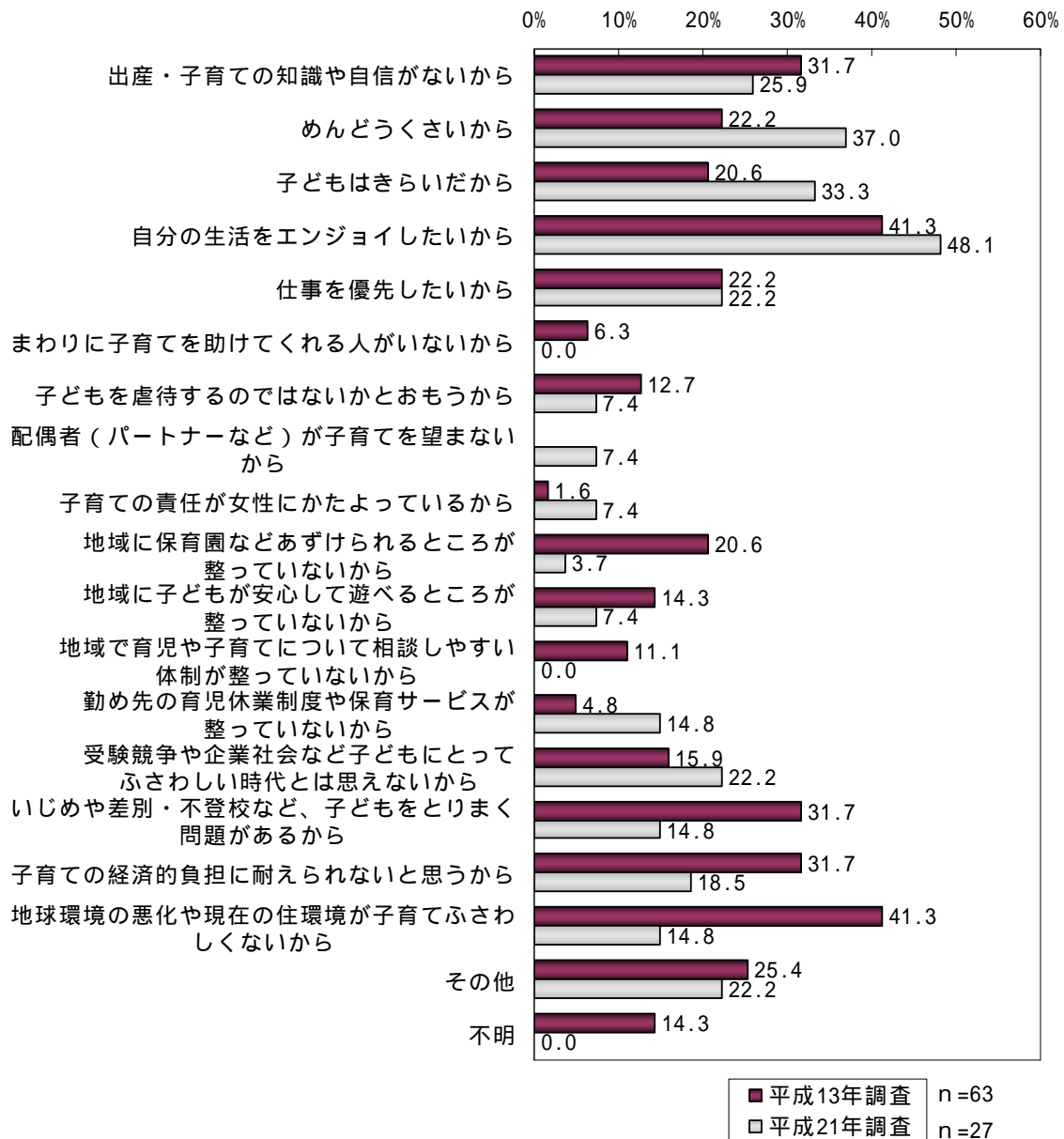
問 12-2 子育てをしたくない理由

問 12「2」 MA

子育てをしたくない理由については、「自分の生活をエンジョイしたいから」が48.1%で最も多く、次いで「めんどくさいから」37.0%、「子どもはきらいだから」33.3%となっている。

前回調査と比較すると、10ポイント以上増加しているのは、「めんどくさいから」(+14.8ポイント)と「子どもはきらいだから」(+12.7ポイント)、「勤め先の育児休業制度や保育サービスが整っていないから」(+10.0ポイント)の3項目となっている。

逆に減少した項目では、「地球環境の悪化や現在の住環境が子育てふさわしくないから」(-26.5ポイント)、「地域に保育園などあずけられるところが整っていないから」と「いじめや差別・不登校など、子どもをとりまく問題があるから」(-16.9ポイント)が大幅な減少で目立っている。

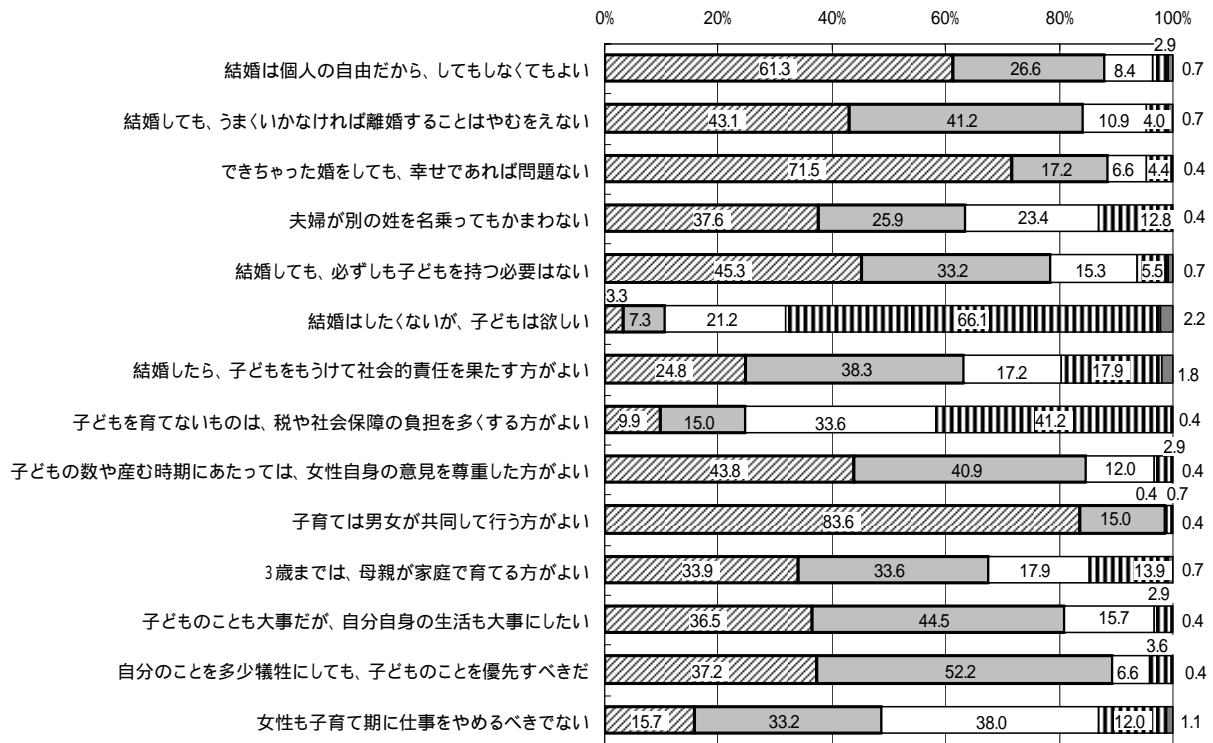


問13 結婚や子育てに関する考え方

SA

結婚や子育てに関する考え方については、「子育ては男女が共同して行う方がよい」が「そう思う」83.6%と「どちらかといえばそう思う」15.0%を合わせた肯定的意見が98.5%と最も多くなっている。最も意見が分かれているのは、「女性も子育て期に仕事をやめるべきでない」で肯定的意見が48.9%、否定的意見が50.0%となっている。

n=274



肯定的意見
 ■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない ■ 不明

	全体	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	不明
結婚は個人の自由だから、してもしなくてもよい	274	168	73	23	8	2
結婚しても、うまくいかなければ離婚すること はやむをえない	274	118	113	30	11	2
できちゃった婚をしても、幸せであれば問題ない	274	196	47	18	12	1
夫婦が別の姓を名乗ってもかまわない	274	103	71	64	35	1
結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない	274	124	91	42	15	2
結婚はしたくないが、子どもは欲しい	274	9	20	58	181	6
結婚したら、子どもをもうけて社会的責任(社会 保障などの負担)を果たす方がよい	274	68	105	47	49	5
子どもを育てないものは、税や社会保障の負担 を多くする方がよい	274	27	41	92	113	1
子どもの数や産む時期を決めるにあたっては、 女性(妻)自身の意見を尊重した方がよい	274	120	112	33	8	1
子育ては男女が共同して行う方がよい	274	229	41	1	2	1
3歳までは、母親が家庭で育てる方がよい	274	93	92	49	38	2
子どものことも大事だが、自分自身の生活も大 事にしたい	274	100	122	43	8	1
自分のことを多少犠牲にしても、子どものこと を優先すべきだ	274	102	143	18	10	1
女性も子育て期に仕事をやめるべきでない	274	43	91	104	33	3

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」とを合わせた肯定的意見について前回調査と比較すると、10ポイント以上の増加が「結婚したら、子どもをもうけて社会的責任(社会保障などの負担)を果たす方がよい」「自分のことを多少犠牲にしても、子どものことを優先すべきだ」の2項目、5~10ポイント減少が「結婚は個人の自由だから、してもしなくてもよい」「3歳までは、母親が家庭で育てる方がよい」「子どものことも大事だが、自分自身の生活も大事にしたい」の3項目となっている。

前回調査との比較

肯定的意見の割合	前回 (平成13年)		今回 (平成21年)
結婚は個人の自由だから、してもしなくてもよい	94.2	↘	88.0
結婚しても、うまくいかなければ離婚することはやむをえない	88.1		84.3
できちゃった婚をしても、幸せであれば問題ない	92.2		88.7
夫婦が別の姓を名乗ってもかまわない	66.7		63.5
結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない	82.3		78.5
結婚はしたくないが、子どもは欲しい	8.6		10.6
結婚したら、子どもをもうけて社会的責任(社会保障などの負担)を果たす方がよい	51.7	↗	63.1
子どもを育てないものは、税や社会保障の負担を多くする方がよい	24.5		24.8
子どもの数や産む時期を決めるにあたっては、女性(妻)自身の意見を尊重した方がよい	81.0		84.7
子育ては男女が共同して行う方がよい	97.2		98.5
3歳までは、母親が家庭で育てる方がよい	75.2	↘	67.5
子どものことも大事だが、自分自身の生活も大事にしたい	87.9	↘	81.0
自分のことを多少犠牲にしても、子どものことを優先すべきだ	77.6	↗	89.4
女性も子育て期に仕事をやめるべきでない	53.8		48.9

表中の矢印は、前回調査からの変化の大小を示す。

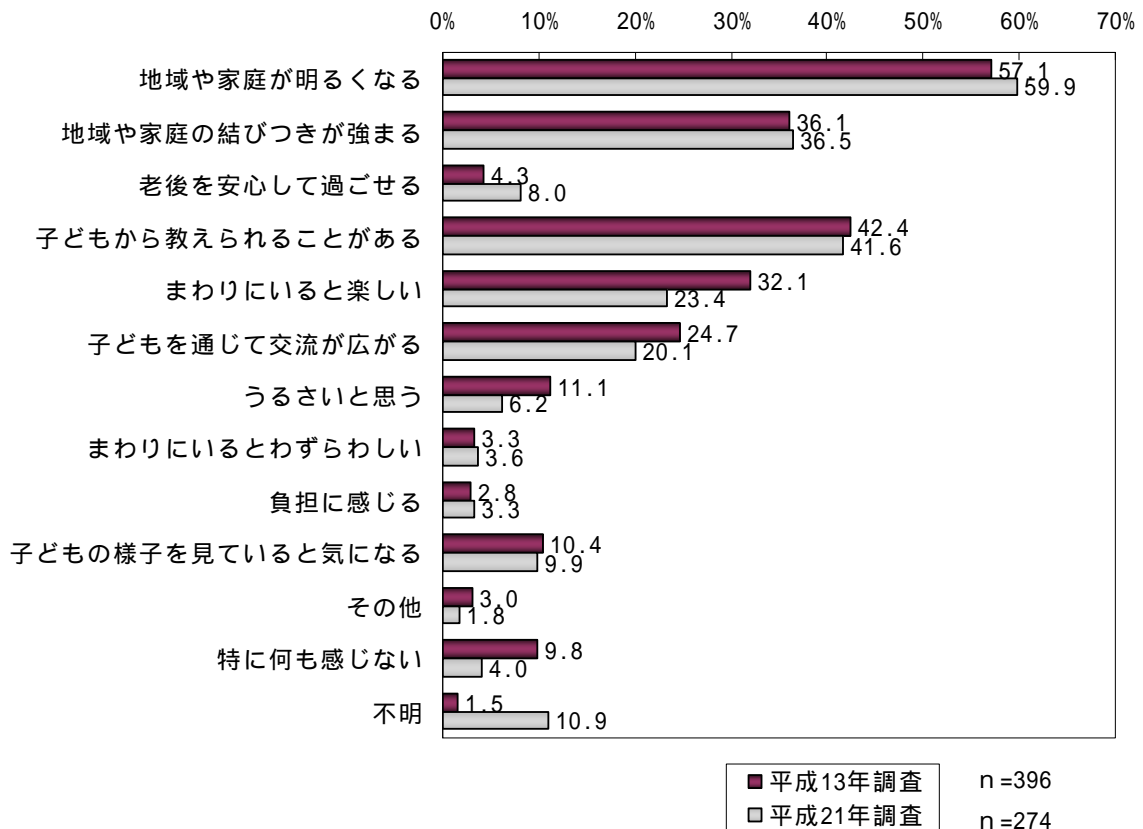
- ・ 5~10ポイント増加 (↗) 、 10ポイント以上増加 (↗)
- ・ 5~10ポイント減少 (↘) 、 10ポイント以上減少 (↘)

問14 家庭や地域の子どもの存在

MA

家庭や地域の子どもの存在については、「地域や家庭が明るくなる」が59.9%で最も多く、次いで「子どもから教えられることがある」41.6%、「地域や家庭の結びつきが強まる」が36.5%の順である。

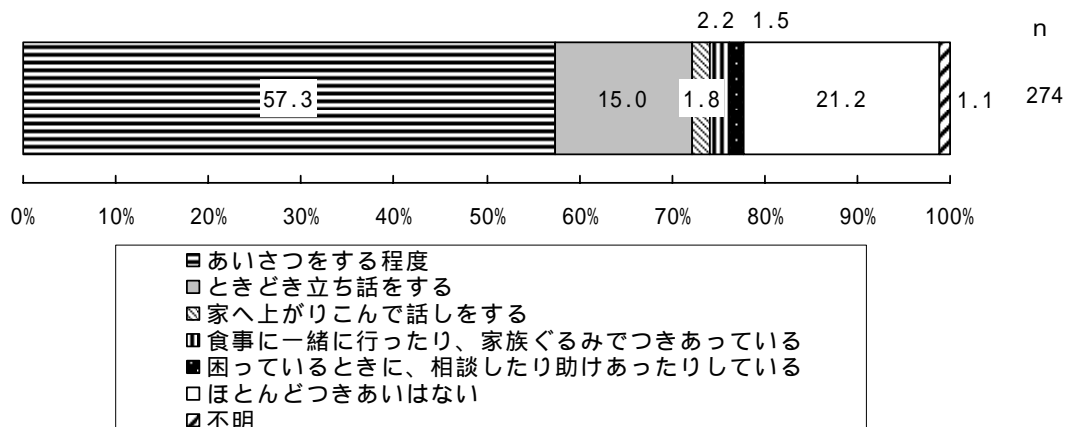
前回調査と比較して最も増加したのは、「老後を安心して過ごせる」(+3.7ポイント)、最も減少したのは、「まわりにいると楽しい」(-8.7ポイント)となっている。



問15 近所づきあい

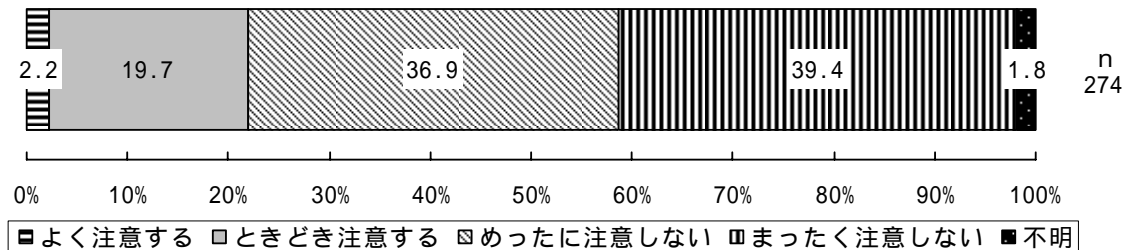
SA

近所づきあいについては、「あいさつをする程度」が57.3%で最も多く、次いで「ほとんどつきあいはない」21.2%、「ときどき立ち話をする」15.0%である。



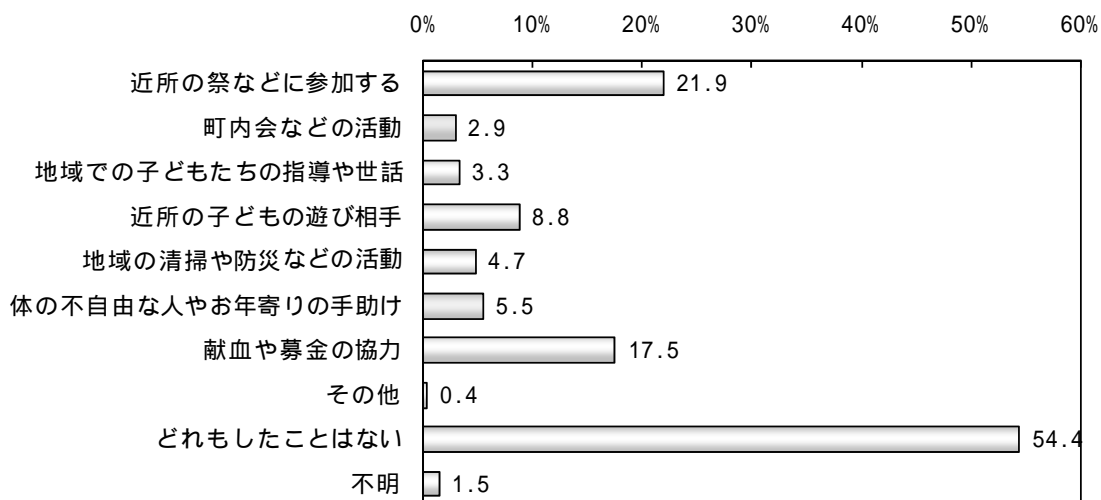
問 16 よその子どものいたずらやいじめに対する注意 SA

よその子どものいたずらやいじめに対しては、「まったく注意しない」が39.4%で最も多く、次いで「めったに注意しない」36.9%、「ときどき注意をする」19.7%である。



問 17 この1年間の地域活動 MA

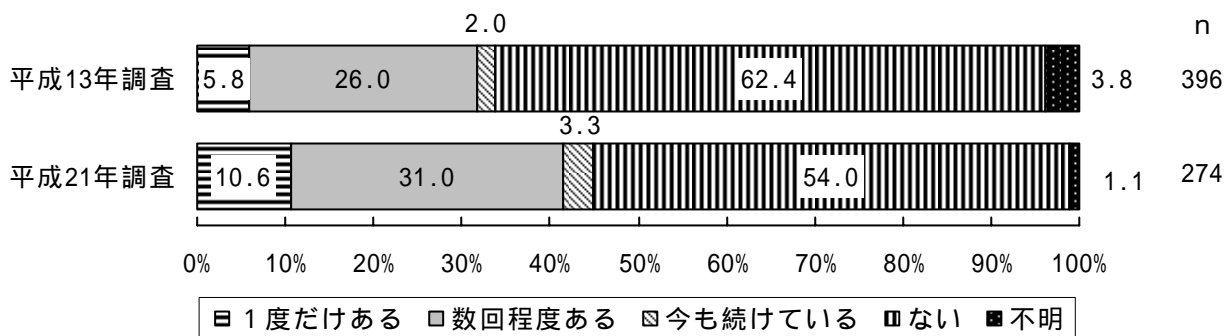
この1年間の地域活動については、「どれもしたことはない」が54.4%で最も多く、次いで「近所の祭などに参加する」21.9%、「献血や募金の協力」17.5%である。



問 18 ボランティア活動経験 SA

ボランティア活動経験については、「ない」が54.0%で最も多く、次いで「数回程度ある」31.0%、「1度だけある」10.6%の順である。

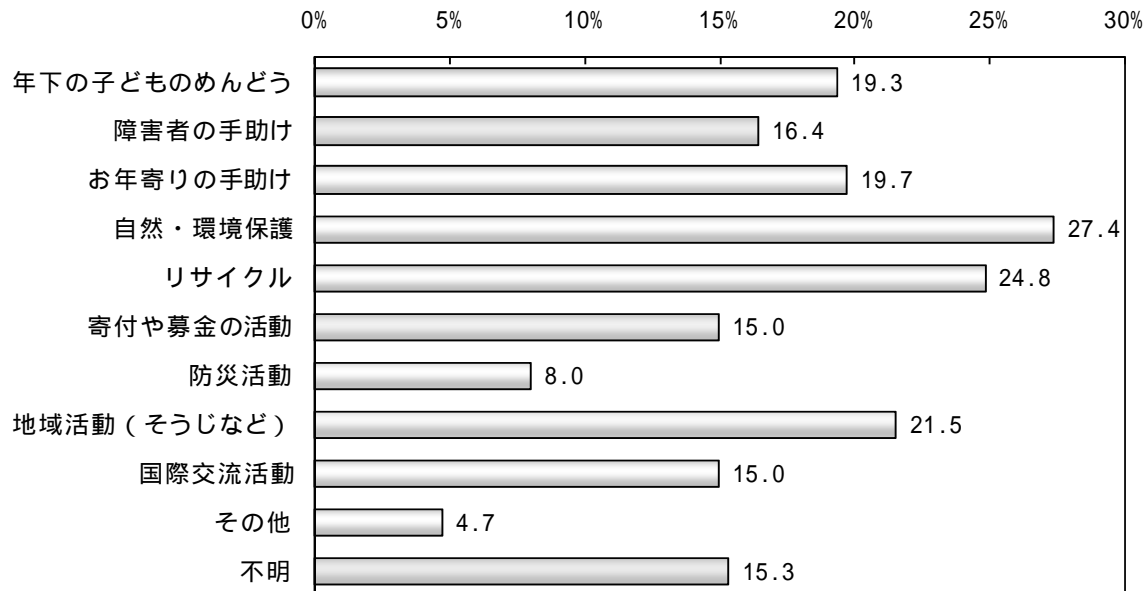
前回調査と比較すると、ボランティア活動経験のある人は増加している。



問 18-1 参加した・参加してみたいボランティアの種類 MA

参加した・参加してみたいボランティアの種類は、「自然・環境保護」が27.4%で最も多く、次いで「リサイクル」24.8%、「地域活動(そうじなど)」21.5%の順である。

n=274



問 18-2 ボランティア活動についての考え方 SA

ボランティア活動についての考え方は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」とを合わせた肯定的意見は、“ボランティア活動はあくまで個人で自主的にすべきだ”が85.0%で最も多く、次いで“ボランティア活動は、まだ日本では定着していない”79.6%、“自分の生活に忙しく、ボランティア活動に参加する余裕がない”73.0%の順である。

	全体	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	不明
ボランティア活動はあくまで個人で自主的にすべきだ	274	139	94	31	7	3
	100.0	50.7	34.3	11.3	2.6	1.1
ボランティア活動は自分自身のためにするものだ	274	30	77	101	63	3
	100.0	10.9	28.1	36.9	23.0	1.1
自分の生活に忙しく、ボランティア活動に参加する余裕がない	274	96	104	42	29	3
	100.0	35.0	38.0	15.3	10.6	1.1
ボランティア活動に謝礼が出るのはおかしい	274	61	89	83	37	4
	100.0	22.3	32.5	30.3	13.5	1.5
ボランティア活動は、まだ日本では定着していない	274	86	132	39	13	4
	100.0	31.4	48.2	14.2	4.7	1.5
ボランティア活動は社会の一員としての義務である	274	17	74	113	67	3
	100.0	6.2	27.0	41.2	24.5	1.1

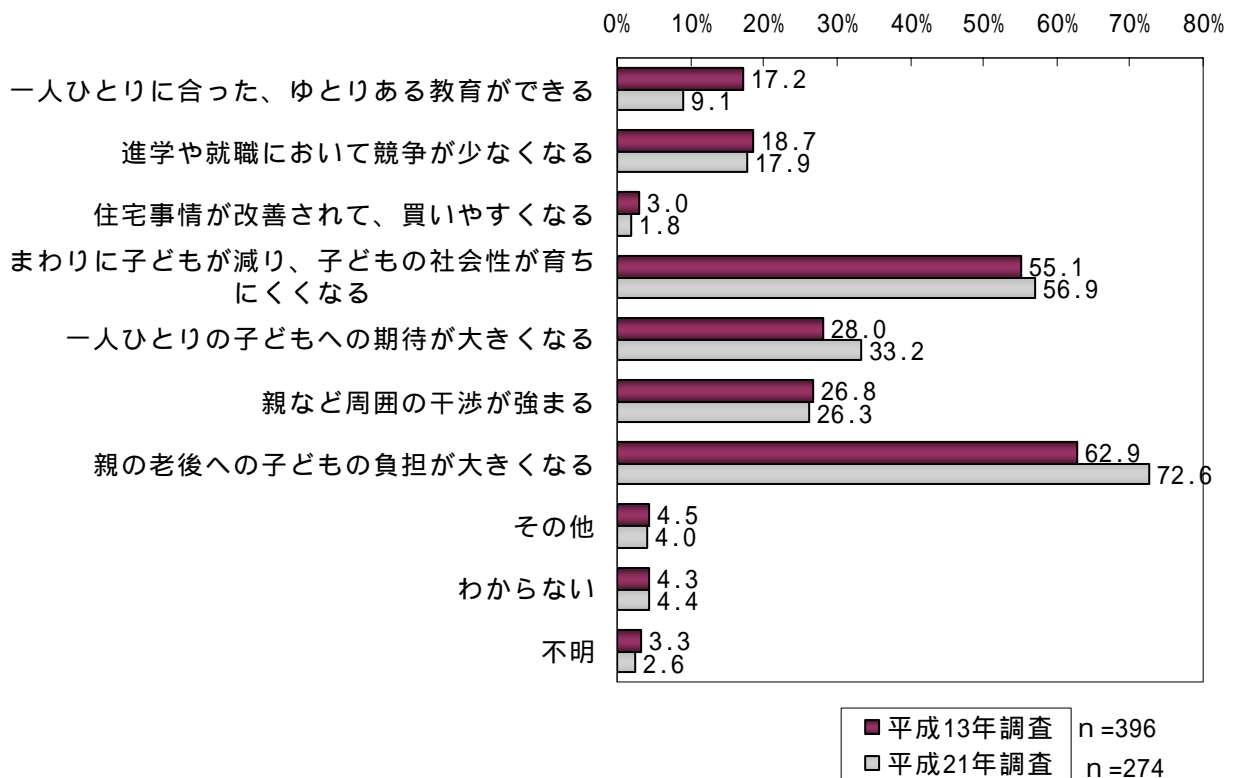
4 少子高齢化について

問 19 少子高齢化が生活に与える影響

MA

少子高齢化が生活に与える影響については、「親の老後への子どもの負担が大きくなる」が72.6%で最も多く、次いで「まわりに子どもが減り、子どもの社会性が育ちにくくなる」56.9%、「一人ひとりの子どもへの期待が大きくなる」33.2%となっている。

前回調査と比較して最も増加したのは、「親の老後への子どもの負担が大きくなる」(+9.7ポイント)、最も減少したのは、「一人ひとりに合った、ゆとりある教育ができる」(-8.1ポイント)となっている。

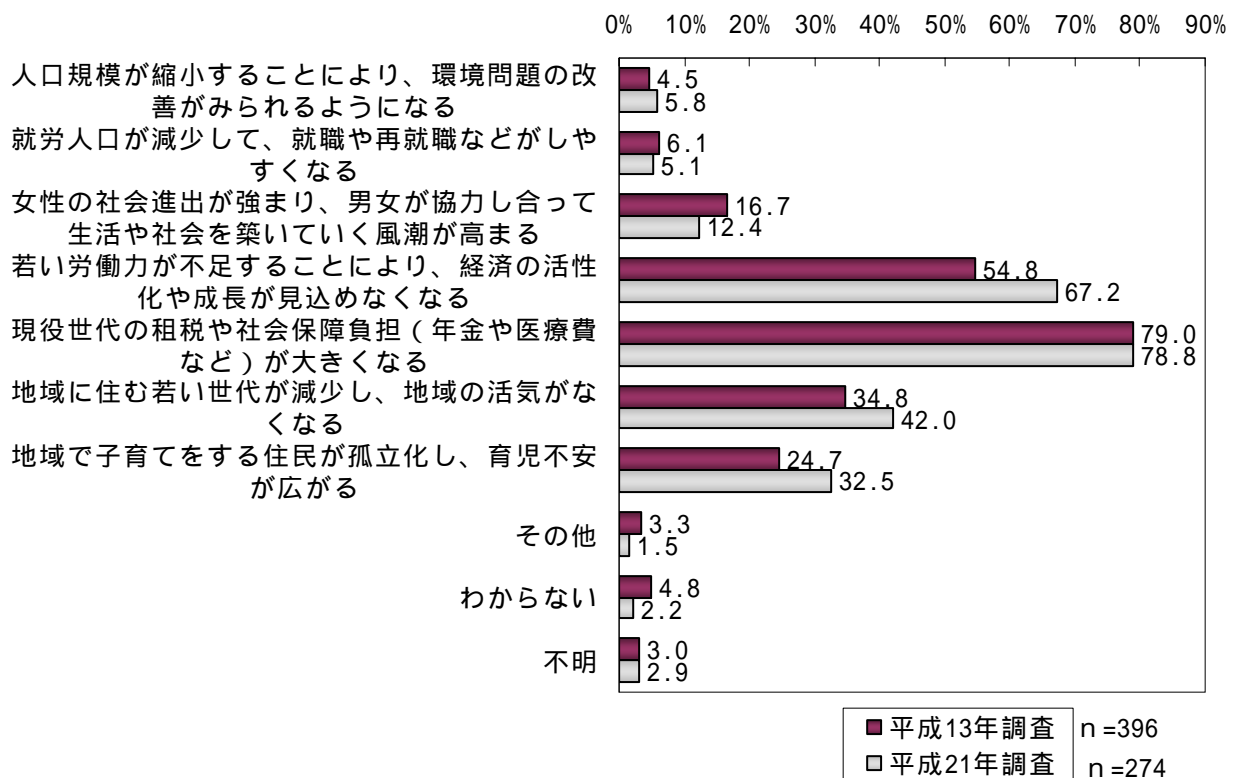


問20 少子高齢化が国や地域社会に与える影響

MA

少子高齢化が国や地域社会に与える影響については、「現役世代の租税や社会保障負担(年金や医療費など)が大きくなる」が78.8%で最も多く、次いで「若い労働力が不足することにより、経済の活性化や成長が見込めなくなる」67.2%、「地域に住む若い世代が減少し、地域の活気がなくなる」42.0%となっている。

前回調査と比較して最も増加したのは、「若い労働力が不足することにより、経済の活性化や成長が見込めなくなる」(+12.4ポイント)、最も減少したのは、「女性の社会進出が強まり、男女が協力し合って生活や社会を築いていく風潮が高まる」(-4.3ポイント)となっている。



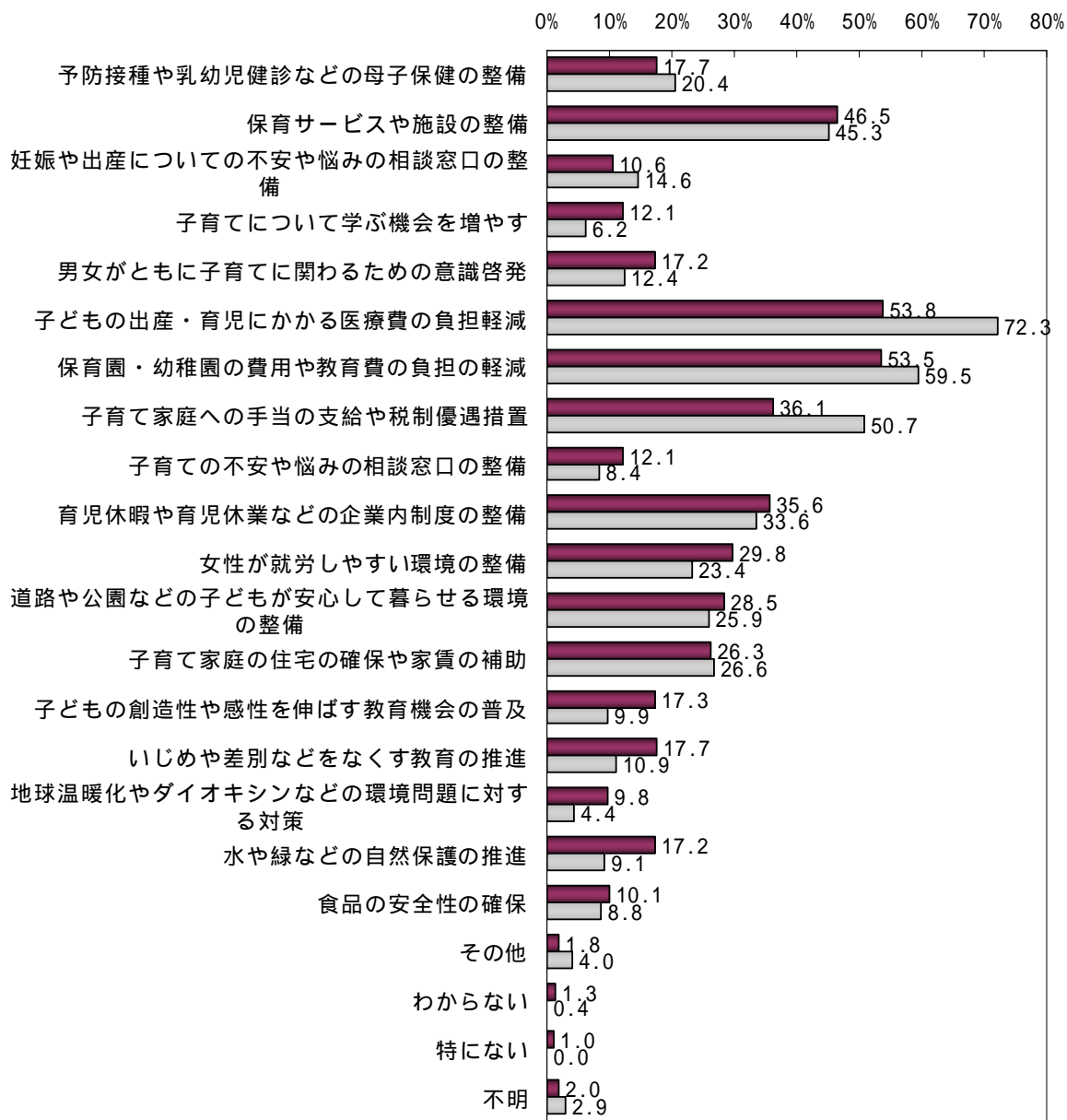
問21 市が子育てしやすい環境整備のためにすべきこと

MA

市が子育てしやすい環境整備のためにすべきことについては、「子どもの出産・育児にかかる医療費の負担軽減」が72.3%で最も多く、次いで「保育園・幼稚園の費用や教育費の負担の軽減」59.5%、「子育て家庭への手当の支給や税制優遇措置」50.7%で過半数を占めている。

前回調査と比較すると、10ポイント以上増加しているのは、「子どもの出産・育児にかかる医療費の負担軽減」(+18.5ポイント)と「子育て家庭への手当の支給や税制優遇措置」(+14.6ポイント)の2項目となっている。

逆に減少した項目では、「水や緑などの自然保護の推進」(-8.1ポイント)が最も大幅に減少している。



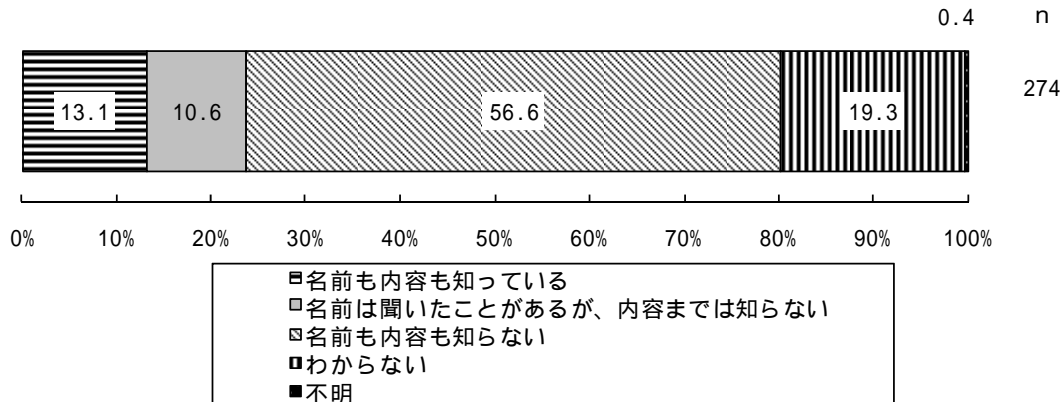
■ 平成13年調査 n=396
□ 平成21年調査 n=274

5 仕事や生活のこと

問 22 ワーク・ライフ・バランスの認知度

SA

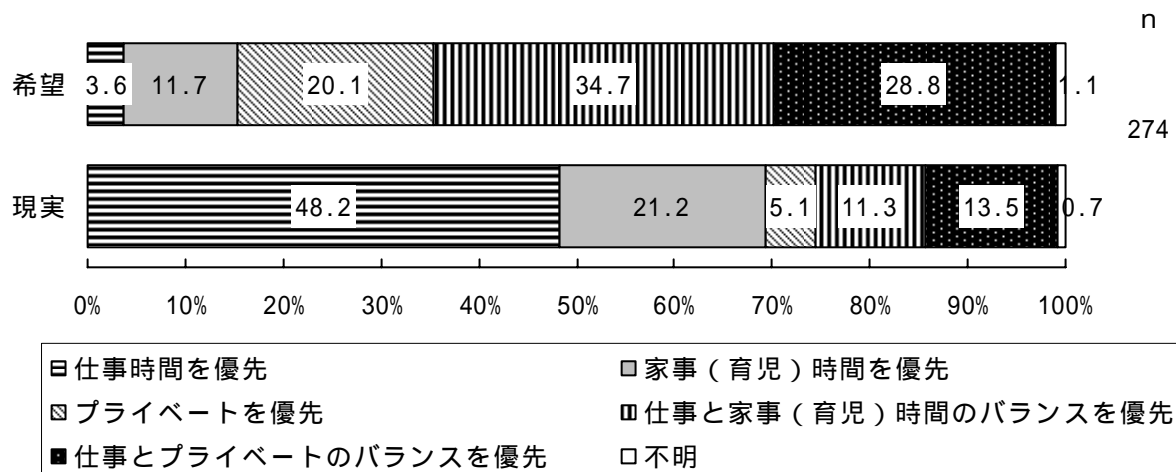
ワーク・ライフ・バランスについては、「名前も内容も知らない」が56.6%で過半数を占めて最も多く、次いで「わからない」19.3%、「名前も内容も知っている」13.1%である。



問 23 「仕事時間」と「家事(育児)・プライベートの生活時間」の優先度

SA

「仕事時間」と「家事(育児)・プライベートの生活時間」の優先度については、“希望”は「仕事と家事(育児)時間のバランスを優先」が34.7%で最も多く、“現実”は「仕事時間を優先」が48.2%で約半数を占めている。

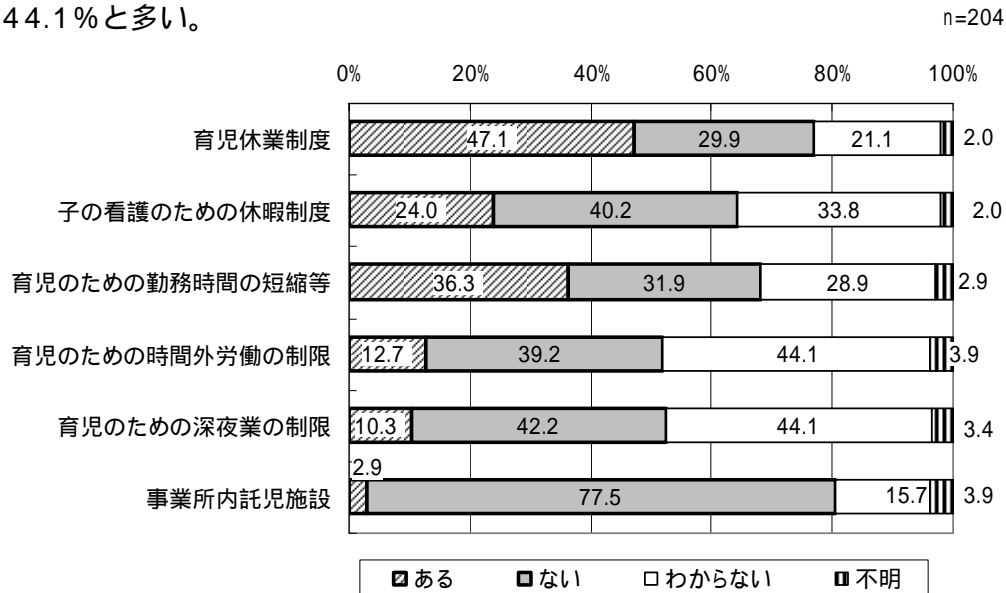


問24 勤務先の仕事と子育ての両立のための制度について

制度の有無(問32「2~7」 SA)

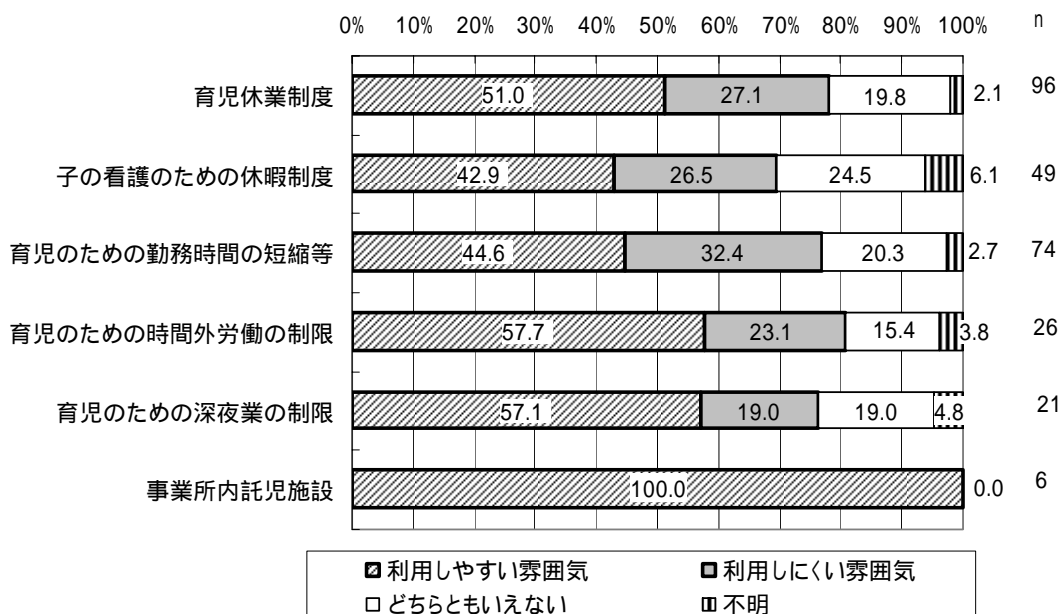
仕事と子育ての両立のための制度については、「ある」は“育児休業制度”が47.1%で最も多く、次いで「育児のための勤務時間の短縮等」36.3%、「子の看護のための休暇制度」24.0%の順である。

“育児のための時間外労働の制限”や“育児のための深夜業の制限”は、「わからない」が44.1%と多い。



制度の利用しやすさ(問24「1」 SA)

制度の利用しやすさについては、「利用しやすい雰囲気」は回答者が少ない“事業所内託児施設”が100.0%で最も多く、その他では“育児のための時間外労働の制限”57.7%、“育児のための深夜業の制限”57.1%、“育児休業制度”51.0%の順で過半数を占めている。

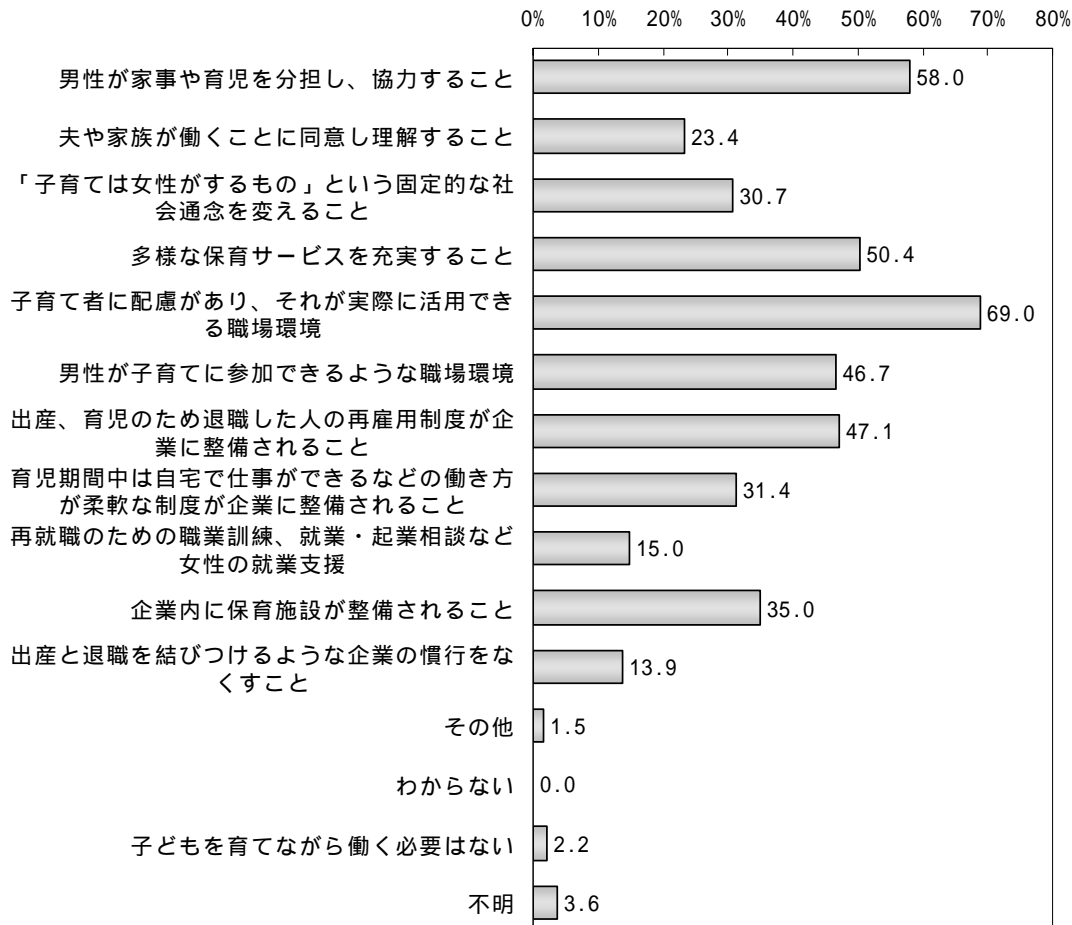


問25 共働きの子育て家庭に必要なこと

MA

共働きの子育て家庭に必要なことは、「子育て者に配慮があり、それが実際に活用できる職場環境」が69.0%で最も多く、次いで「男性が家事や育児を分担し、協力すること」58.0%、「多様な保育サービスを充実すること」50.4%の順で過半数を占めている。

n=274



6 あなた自身のこと

問 26 性別

SA

No.	カテゴリー名	n	%
1	女性	176	64.2
2	男性	94	34.3
	不明	4	1.5
	全体	274	100.0

問 27 年齢

SA

No.	カテゴリー名	n	%
1	25歳	20	7.3
2	26歳	59	21.5
3	27歳	46	16.8
4	28歳	49	17.9
5	29歳	96	35.0
	不明	4	1.5
	全体	274	100.0

問 28 居住地区

SA

No.	カテゴリー名	n	%
1	田無町	30	10.9
2	南町	14	5.1
3	西原町	9	3.3
4	緑町	5	1.8
5	谷戸町	15	5.5
6	北原町	9	3.3
7	向台町	14	5.1
8	芝久保町	26	9.5
9	新町	10	3.6
10	柳沢	15	5.5
11	東伏見	12	4.4
12	保谷町	18	6.6
13	富士町	15	5.5
14	中町	10	3.6
15	東町	10	3.6
16	泉町	6	2.2
17	住吉町	9	3.3
18	ひばりが丘	6	2.2
19	ひばりが丘北	6	2.2
20	栄町	4	1.5
21	北町	6	2.2
22	下保谷	16	5.8
	不明	9	3.3
	全体	274	100.0

問 29 居住年数

SA

No.	カテゴリー名	n	%
1	1年未満	38	13.9
2	1年～5年	107	39.1
3	6～10年	30	10.9
4	11年～15年	14	5.1
5	16年～20年	9	3.3
6	21年以上	72	26.3
	不明	4	1.5
	全体	274	100.0

問 30 同居者

MA

No.	カテゴリー名	n	%
1	同居者はいない(一人暮らし)	40	14.6
2	配偶者・パートナー(単身赴任などで別居も含む)	138	50.4
3	自分または配偶者・パートナーの親	71	25.9
4	自分または配偶者・パートナーの祖母・祖父	13	4.7
5	兄弟姉妹	47	17.2
6	その他の親類	13	4.7
7	その他	33	12.0
	不明	4	1.5
	全体	274	100.0

問 31 同居者数

SA

No.	カテゴリー名	n	%
1	1人暮らし	40	14.6
2	2人	78	28.5
3	3人	82	29.9
4	4人	51	18.6
5	5人	14	5.1
6	6人	5	1.8
7	7人以上	4	1.5
	不明	0	0.0
	全体	274	100.0

問 32 職業

SA

No.	カテゴリー名	n	%
1	学生	3	1.1
2	民間企業の会社員(正社員)	117	42.7
3	公務員	11	4.0
4	自営業・自由業	14	5.1
5	パート・アルバイト	37	13.5
6	嘱託	3	1.1
7	派遣	22	8.0
8	無職	40	14.6
9	その他	25	9.1
	不明	2	0.7
	全体	274	100.0